



R3入学式 ようこそアクティブステージへ!



る東海南』に、そして、人とのつながりが頑張る活力になるように、友だちや先生、家族との人間関係を大切にしてほしい」



行動で示し、1年生はそれを肌で感じて、自然と見習っていく。伝統はそうにして受け継がれていきます。(2・3年生、任せましたよ)でも、受け継ぐだけでは進化はありません。1年生は、東海南に新しい風を吹き込んでいます。今のところ挨拶が一番元気なのは1年生です。部活体験でもはりきって積極的に参加しています。三つの小学校から集まり、それぞれの良さや特徴を生かしながら、東海南1年生の個性がどのように表われてくるか、これからの成長がとても楽しみです。

春霞の下、校門の二本の桜だけが、新入生の入学をずっと待っていたかのように、たくさんの花びらを残しています。4月8日、39名の新入生を迎え、令和3年度の入学式が挙行されました。今年も新型コロナウイルス感染症対策のため、来賓の出席はなく、席の間隔をとり、全員マスクをして(入退場と壇上での挨拶はマスクをとりました)の式となりましたが、体育館にはキリッとした緊張感の中、ほのぼのとした笑顔が溢れました。

私からは、今年も「活」の一字を掲げ、「この東海南で、誰もが自分の良さを活かし、活躍する舞台(アクティブステージ)に立ってください。そして、そんな仲間をみんなで応援できる活気溢れる学校を創っていきましょう。その土台として、全員

が当たり前のことを当たり

り前にできる『普段を誇れる』と式辞を述べました。そして、新入生代表の岩井柚月さんが、「仲間と協力し、何事にも前向きに取り組んでいきます」と力強く決意を述べ、在校生代表の生徒会長の川口凜華さんが「私たちが先輩方にしてきてもらったように、私たちも皆さんを支えます」とたのもしく応えました。

1年生は、先輩がつくってきた東海南の校風(学校の雰囲気のようなもの)の中で小学生から東海南生に成長していきます。2・3年生は態度や



華道(嵯峨御流)を体験しました

3月22日、
1年生(現2年生)の授業参観
で華道を体験し



ました。この授業は中野上公民館の提案と協力を得て実現しました。講師先生は嵯峨御流華道大和司所の梅本先生です。司所からも応援いただき、花や用具も全て準備していただきました。

まずは先生から嵯峨御流の歴史や生け花の基本型を教わり、いよいよ目の前に並んでいる花をオアシスに差していきます。生徒たちは、初めてにもかかわらず、先生から教わった華道の型を守りながらも、どんどん自分なりのイメージで花を生けていきます。参加してくれたお母様方も「放っておけない!」と我が子にアドバイスをしたり

り、手伝ったりしながら、和気藹々とした雰囲気です。授業は進んでいきました。意外な才能を発揮する生徒、自分のこだわりを持って個性的な作品に仕上げる生徒など、普段の授業では見られない発見もありました。皆さん、できあがった作品を持って記念写真を撮るなど、とても気に入った様子でした。作品はそれぞれが持って帰り、玄関などに飾られ、家族の方にも喜んでもらったそうです。

一生に一度しかない体験だったかもしれません。伝統文化を知るとともに、今まで知らなかった自分のセンスに気付いた生徒もいることでしょう。今回のように、教員以外の大人から、教科書には載っていないセカイを教わる機会はとても貴重です。いろいろなセカイを経験して、どんどん視野を広げていきましょう。関わってくださった大和司所の方々、中野上公民館の三家さん、本当にありがとうございました。



やってみました! ボランティア清掃

3月28日、小
雨が降る日曜日
の朝。有志12
人で学校周辺の



ゴミ拾いボランティアを行ないました。2月にバスケット部がマラソン大会に向けてコースの試走に行ったとき、道端のゴミの多さに気づき、拾ったのがきっかけ。その活動を少しでも広げようと、修了式の後、生徒会役員でもあるバスケット部の西畑ひなたさんが、全校生徒に呼びかけました。天候が危ぶまれましたが、集まった有志で、空き缶や瓶、ビニール袋などのゴミを、ポリ袋にたくさんに集めました。1時間程度でしたが、気負う

ことなく、ごく自然にできたボランティア活動です。生徒からの呼びかけで、自主的に集まってできたことに価値があります。これからも、継続できたらいいですね。

令和3年度 東海南中学校 学校教育目標

職員一丸となって頑張ります!

人権と人とのつながりを大切に、

自己の可能性を伸ばそうと努力し続ける生徒の育成

